

校友会会報

No. 25



酪農学園大学同窓会校友会

2019年1月1日発行

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町 582 番地 同窓生会館内

TEL (011) 386-1196

FAX (011) 386-5987

E-mail rg-kouyu@rakuno.ac.jp

HP <https://kouyukai.rakuno.org>

発行 酪農学園大学同窓会校友会

印刷 社会福祉法人 北海道リハビリ

新しい年への歩み

酪農学園大学同窓会校友会 会長 小山 久一

はじめに

新しい年を迎えることができることを酪農学園大学同窓会校友会（以下、校友会）会員の皆様と心から慶び合いたいと思います。しかし、2018年は全国的に大型台風による被害が相次ぎ、北海道ではそれに加えて地震と大停電が発生し、社会生活のほとんどが停止しました。雪国北海道ではホワイトアウトというのは聞きますが北海道全体が一瞬にして停電となり、酪農にも影響を及ぼしたブラックアウトという言葉は初めてでありました。皆様の中には被災された方もいるようであります。心からお見舞いを申し上げるとともに、早く元の生活に戻ることを願っております。

できることは何か

さて、新しい年を迎えるに当たり皆様は、過ぎし年はどうだったかを考え何か新しい目標を立て、それに向かって努力していることと思います。創立者黒澤酉蔵は著『反芻自戒』の中で「時は生命である。時間のムダづかいは、命のムダづかひである」といっています。確かに、新しい目標が具体的であればあるほど励んでいくことでは、私は「命のムダづかひ」にならないようにすることが大切で、そのためには日々努力することだと思えます。日々の努力はその延長線上に小さくとも成果となって現れ、さらに目標に近づくことになると思えます。しかし時には思ったようにはいかず苛立つものですが、大切なのは結果のみを求めず「時間のムダづかひ」にならぬよう、今できることは何かをよくよく考え実行することであると思えます。

校友会は親睦と交流を目標の一つに掲げ、日々励んでいます。会員の増加に伴い仕事も増えている中で、目の前にある事柄と真摯に向き合い取り組んでおります。

校友会の発展は無限

最近、酪農学園大学の入学式では直後に入学生に対して校友会も含めて酪農学園同窓会のことを話しております。酪農学園大学の卒業生は全国に大勢いて活躍していること、何かと相談



に乗ってもらえることなどを話します。今年になって、それを聞いた新入生の一人が地元の校友会会員のところに親と共にすぐに訪ねたそうです。酪農学園大学の入学に少し不安があったようです。訪問の後、この学生にとっては自分を変えるきっかけとなり、不安はだいぶ解消され、無事学園生活を送っているようです。これは小さい話のようですが、校友会にとっては大切なことであります。すなわち、酪農学園同窓会の懇親会もそうですが、卒業生の話は他の人の人生を変えるきっかけとなることに通じるからです。私たちの身の周りには変わるきっかけが家族のひと言や書物等たくさんありますが、卒業生は全国に大勢います。そのひと言には人生の手掛りとなる無限の力が潜んでいるのです。

おわりに

校友会は親睦と交流を大切にしている組織です。目的は単純ですが、多様な人材が集まり、価値観も異なります。そのような組織においては画一的な硬直した考えを捨て、時代の変化や個人の事情に対応していかねばなりません。

皆様一人一人のご支援をきっかけに楽しい会になるようこれからも宜しく願いいたします。

■循環農学類「学類の近況」

循環農学類長 中辻 浩喜

同窓生の皆様には、益々ご健勝のことと存じます。また、日頃から循環農学類の運営等に対するご支援に深く感謝申し上げます。さて、循環農学類では、2018年3月に4期生241名が卒業、新入生は268名で2018年9月1日現在、1,110名の学生が在籍しております。相変わらずの大所帯ですが、48名の学類教員が学生指導にあたっております。

次に、この1年間の教員の異動についてご報告いたします。2018年3月に3名の先生が退職・転出されました。扇勉教授（肉用家畜飼養学）が嘱託の任期を終えられ退職となりました。今後は生活の一部であるマラソンにも一層熱が入ると思われま。また、西田丈夫教授（農業科教育）がとわの森三愛高等学校校長、安宅仁人講師（教育学）が小樽商科大学准教授として転出されました。西田先生には高大連携強化に向け、引き続きご尽力いただいております。また、安宅先生におかれましては、学類としては「若手の流出」ということで大変痛手ではありますが、新天地で益々のご活躍を期待しております。この場をお借りし、各先生のこれまでの教育研究および学類運営に対する多大なご貢献に感謝申し上げます。

一方、4月には、小八重善裕准教授（作物栄養学）、中平賢吾准教授（農業昆虫学）、日向貴久准教授（酪農・畜産経営論）、飛谷淳一准教授（農業科教育）の4名が

着任されました。森好政晴先生（前獣医学類准教授）には嘱託准教授として当学類の講義、実験実習をご担当いただいております。また、小糸健太郎准教授（国際経済学）が教授に、宮崎早花（食物利用学）、亀岡笑（栽培学）、西寒水将（家畜生産改良学）の3名の先生がそれぞれ助教から講師へ昇任されました。学生教育・研究に益々尽力されることを期待しております。うれしいことはまだまだあります。岡本英竜准教授（環境微生物学）が本学に学位論文を提出し、2018年3月に晴れて博士（獣医学）の学位を取得されました。また、西寒水将講師が日本胚移植研究会賞「樹田賞」を、亀岡笑講師が日本作物学会論文賞を、堂地修教授（家畜繁殖学）が日本繁殖生物学会「技術賞」をそれぞれ受賞されました。

私ども循環農学類所属教員は、学生教育・研究にとどまらず、農畜産現場での実践指導や政策助言、講演会・講習会講師等、数多くの「エクステンション活動」を行っております。これらの内容については、本年度発行予定の「農食環境学群業績集」をご覧ください。最後にありますが、今後とも循環農学類発展のため、学類メンバー一体となって努めて参りますので、同窓生の皆様には引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



2018年3月学類4期生卒業記念写真

■食と健康学類「学類の近況」

食と健康学類長 竹田 保之

食品科学科、食品流通学科ならびに食と健康学類卒業生の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。2018年は6月の大阪府北部地震、9月の北海道胆振東部地震をはじめ、大きな台風もいくつか襲来いたしました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、2018年3月には食と健康学類4期生172名（うち管理栄養士コース38名）が、9月には3名（いずれも食品系3コース）が社会へと巣立ちました。また、3月末に行われた管理栄養士国家試験においては卒業生38名全員が合格し、道内の管理栄養士養成施設校の中ではトップの合格率を達成することができました。一方、本年度は学類全体で172名（うち管理栄養士コース44名）の入学者があり、2018年5月1日時点で総勢721名（うち管理栄養士コース181名）の学生が在籍しております。

教員の異動につきましては、2018年3月をもって松野一彦教授（栄養学研究室）、安川澄子教授（公衆栄養学研究室）、佐藤理紗子助手、松谷佳苗助手の4名がご退職されました。4名の先生方には学類の教育、研究そして国家試験対策にご尽力いただきました。また、松野先生は学生相談室長ならびに学校医としての重責も担われておりました。皆様方に改めて感謝申し上げますとともに、益々のご活躍を期待しております。2018年4月より若宮伸隆教授（医学・生理学研究室）、大谷克城教授（臨床栄養学研究室）、前田尚之助教（肉製品製造学研究室）、木村宣哉助教（公衆栄養学研究室）、佐々木志帆助手、山本百合恵助手の6名の先生方が新たに勤務されております。前田先生は2016年度末で退職された石下先生の後任として、また木村先生は安川先生の後任としてご活躍されております。若宮先生と大谷先生は前職（旭川医科大学）で行っていた抗酸化機能分析に関するプロジェクトを引き続き本学でも実施

表 学生表彰者（2017年10月～2018年9月）

大会名	賞と受賞者
みらいの食べる北海道スープレシピコンクール	優秀賞；岡崎 茉衣 (給食栄養管理研究室、3年)
顕微鏡学会北海道支部会 ポスター発表	支部長賞；森 咲子 (応用生化学研究室、4年)

されております。また、若宮先生には松野先生の後任として学生相談室長ならびに学校医もお引き受けいただいております。佐々木先生と山本先生は学類授業全般のサポートで忙しい日々を過ごしております。同時期に6名の先生の着任は学類始まって以来のことであり、これからの食と健康学類の発展に大きな力となってくれるものと思います。

この1年も食と健康学類の学生がさまざまな表彰を受けました（表）。また、石井智美先生が平成30年度栄養関係功労者厚生労働大臣表彰を受賞され、大変喜ばしい限りです。数年前から行われておりますワインプロジェクトの一環として、2017年に引き続き2018年も記念のロゼワインを製造することができました（写真）。大学ホームページより購入申込票をダウンロードできます。是非、ご賞味ください（売り切れの場合はご容赦願います）。

食品科学科、食品流通学科ならびに食と健康学類の同窓生の皆様におかれましてはご健康に留意され、益々ご活躍されることをご祈念申し上げます。近年の少子化は食と健康学類にも確実に影響を与えてきております。教職員一同、学類の発展になお一層努力してまいります。今後とも食と健康学類の教育、研究に格段のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



写真

■環境共生学類「学類の近況」

環境共生学類長 佐藤 喜和

環境システム学部ならびに環境共生学類卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より学類の運営等にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

環境共生学類では、2018年4月より、立木靖之准教授と原村隆司准教授が着任されました。立木先生は、生物多様性保全研究室を担当されます。EnVision環境保全事務所、マレーシア・サバ大学を経て着任されました。大型哺乳類の管理における社会的側面を中心に教育研究を進めていただきます。原村先生は生物資源保全学研究室を担当されます。動物行動学がご専門で、両生爬虫類や昆虫など幅広い動物を対象に教育研究を進めていただきます。お二人とも早速ゼミ生の指導や多くの講義を担当頂いています。お二人の今後の活躍にご期待ください。また松山周平先生(環境植物学研究室)が准教授に、中谷暢丈先生(水質化学研究室)が教授に昇任されました。

2017年12月には、(一社)鳥獣管理技術協会(宇都宮市)が実施している鳥獣管理士の資格認定試験が本学で行われ、環境共生学類野生動物学コースの認定カリキュラムの必要単位を取得した学生が初めて受験し、3級に33名、2級に5名合格しました。また、2018年5月には、同じく全国初の認定カリキュラムとなった(一社)エゾシカ協会(札幌市)が実施しているシカ捕獲認証レベル1の資格認定試験が本学で行われ、必要単位を取得した学生が受験し5名が合格しました(写真1)。

2018年6月には環境GIS研究室(金子正美教授)が、環境大臣より地域環境保全功労者として表彰を受けました。昨年北海道より環境保全活動功労者表彰を受けた、江別市内の小学校における空中写真を活用した環境教育活動が高く評価されました(写真2)。

同窓生の皆さまのご健康とますますのご活躍を祈念いたしております。今後とも環境共生学類の教育・研究にご理解とご協力いただけますようお願いいたします。



写真1 シカ捕獲認証レベル1合格者



写真2 左から卒業生の大崎美佳さん、中川雅治環境大臣、金子正美教授

■獣医学類「学類の近況」

獣医学類長 山下 和人

同窓生の皆様には、日頃より獣医学類の運営ならびに教育研究活動に関してご支援を賜り心から感謝申し上げます。まず、この1年間の獣医学類の教員の異動をご報告致します。2018年3月には、生産動物内科学Ⅱユニット小岩政照教授、獣医衛生学ユニット永幡肇教授、および動物生殖学ユニット森好政晴准教授（循環農学類准教授就任）の3名のベテラン教授および准教授が定年退職されました。また、獣医組織解剖学ユニットの竹花一成教授は、学長職に専念されるため早期退職されました。各先生には、長年に渡り本学獣医学科および獣医学類の教育研究と運営の中心として多大なる貢献を頂きました。我々後輩教員一同心から感謝申し上げるとともに、各先生のこれまでのご尽力を継承せねばと思う次第です。また、2018年3月に伴侶動物外科学Ⅱユニットの遠藤能史講師、2018年8月に獣医組織解剖学ユニットの美名口順講師が退職されました。遠藤先生には、伴侶動物外科学の教育研究と附属動物医療センターでの腫瘍科診療、美名口先生には獣医組織学の教育研究に尽力して頂きました。お二人が新天地でご活躍されることを期待しています。

新任として、生産動物内科学Ⅱユニットに安藤達哉准教授（本学22期卒）、獣医解剖学ユニットに渡邊敬文准教授（本学34期卒）、獣医放射線生物学ユニットに華園究助教（本学35期卒）、動物生殖学ユニットに杉浦智親助教（本学37期卒）、伴侶動物外科学Ⅱユニットに酒井俊和助教（本学40期卒）、および獣医衛生学ユニットに権平智助教（本学43期卒）が着任され、教育研究と忙しい日々を精力的に過ごされています。また、生産動物医療学分野に阿部紀次嘱託助手および富岡美千子嘱託助手、伴侶動物医療学分野に伊丹貴晴嘱託助手（本学37期卒）、大山紀彦嘱託助手、加藤礼子嘱託助手、および谷川慶一嘱託助手（本学45期卒）が着任されました。

続きまして、近年の獣医学類の新しい3つの取り組みである獣医学共用試験、国際化対応、および組織改革をご紹介致します。2018年2月には第2回獣医学共用試験が実施され、4年次学生（現5年次）が受験しました。全員合格とはいきませんでしたがほとんどの学生が合格し現在「Student Doctor」として本学動物医療センターの診療実習または遠軽町・湧別町・オホーツク農業共済組合・えんゆう農業協同組合・湧別町農業協同組合と本学の連携協定に基づくオホーツク臨床実習に参加し、真の実学教育を通して獣医師としての腕を磨いています。

本学獣医学群では2015年3月に「酪農学園大学獣医学群改革基本方針2014」を設定し、本学獣医学群の20年後の理想像（社会貢献でき、先進的で総合的であり、国際化に対応した獣医学および動物看護学の教育研究）を目指して教育研究体制を整備することとしま

した。現在この改革基本方針のもと、国際化に関しては海外の獣医系大学との単位互換制度の確立および国際的認証評価を基にした獣医学教育体制の整備という二本柱で国際化に取り組んでいます。本学では、2013～2017年度に北海道大学主導で東京大学とともに世界展開力強化事業を進め、毎年約10名（合計約40名）の本学獣医学類5年次学生がタイのカセサート大学獣医学部で約4カ月間の臨床実習を受講し、単位互換制度の基で単位を取得しました。本学でもカセサート大学獣医学部から毎年20名の学生を受入れ、臨床実習や衛生実習を実施しました。本年度以降は、本学とカセサート大学の間で双方最大5名を対象に独自事業として継続します。

本学獣医学類は、わが国の大学基準協会による獣医学教育の第三者評価を受審しており、2018年11月に実地調査が実施されました。さらに本学獣医学類の獣医学教育が国際水準にあるのか、国際水準にないとなれば何が足りないのかを明確にすべく、European Association of Establishment for Veterinary Education (EAEVE)による認証評価の受審準備を進めており、2019年10月21～24日に事前審査を受審します。これらの第三者評価を受け獣医学教育を改善することによって、本学獣医学類に入学してくる学生に、国際レベルの良質な獣医学教育を提供できるようになります。海外の獣医系大学との単位互換制度と獣医学教育における国際的認証評価を基にした改革によって、本学類は国際水準に合致した獣医学教育を通して現場に役立つ獣医師を同窓生の皆様のお手元に送り届けることができると確信しております。

前述の大学基準協会による獣医学教育の第三者評価ならびにEAEVEによる認証評価の準備を進めていくに当たり「酪農学園大学獣医学群改革基本方針2014」に基づいた獣医学類の教育研究体制の見直しを加速することが喫緊の課題となっています。具体的な対応事例として、2018年4月より生産動物外科学ユニットの鈴木一由教授を国際化担当、獣医解剖学ユニットの加藤敏英教授を生産動物外科学ユニット、および実験動物学ユニットの平田晴之准教授を獣医寄生虫病学ユニットに配置転換しました。また、獣医解剖学ユニット（教員2名）ならびに獣医解剖組織学ユニット（教員2名）を統合して獣医解剖学ユニット（教員3名）に再編しました。今後も「酪農学園大学獣医学群改革基本方針2014」に基づき、国際水準に合致した獣医学教育を実現すべく大胆に組織改革を取り進めていく所存です。

最後になりますが同窓生の皆様のご健勝と益々のご発展をご祈念申し上げます。また、今後とも皆様から変わらないご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

■獣医保健看護学類「8年目を迎えて」

獣医保健看護学類長 北澤多喜雄

皆さんこんにちは！校友会便りをお届けします。獣医保健看護学類の学類長を拝命しております北澤多喜雄です。よろしくお願いします。獣医保健看護学類は教育システムを変更した2011年4月に開設されましたので本年度で8年目を迎えています。8は中国では末広がり縁起の良い数字と聞いています。本年度を一つの節目として学類も新しい方向に広がり進んでいべきと考えています。本年度は学類の構成メンバーに変化がありました。学類の開設当初から教授として学類運営にご尽力を頂いた内田英二教授が2018年3月末に一身上の都合で退職し、後任に菅野美樹夫教授が着任しました。また、嘱託准教授として学類の教育に携わっていただいていた黒澤隆先生も3月で大学を去っています。他の構成員には変わりはありません。

2018年度の入学者選抜試験では衝撃が走りました。志願者数が前年度比で60%近くまで減少してしまいました（2017年度335名から200名）。最終的には、56名が8期生として入学しましたが、2019年度の学生募集やその後を考えると不安も少なくはなく、魅力的で方向性が明確な学類を目指し新しい教育プログラムに

ついて多くの議論を重ね、来るカリキュラムの改定に向けての準備を既に始めております。その中には新しく赴任された菅野先生を中心とした産業動物看護師の育成も含まれています。一方、出口の方では3月に4期生を輩出しました。4期生の就職先は民間小動物病院の動物看護師が40%以上であり、次いで民間企業（動物関連、非動物関連）が30%程度、他に生産動物関連（農協、人工授精師等）、進学（含む大学院）、公務員等がありました。大学院獣医学研究科修士課程においても2期生4名が修了し北海道ノーサイ、水族館、伴侶動物病院等で汗を流しています。

国外大学との学術交流では現在、米国のパデュー大学との協定締結を目指しています。6月には動物看護学科の学科長（Bianca Zenor博士）を招聘して学類の研究・教育の実情を見て頂き、記念講演も行ってもらいました。また、3名の学生が7月にパデュー大学に行き2週間の臨床研修を行い帰国しました。このような活動の積み重ねにより学術協定が近々締結される見込みとなっています。加えて、以前から行っていた米国のフィンドレー大学との学術交流では看護学類がホ



フィンドレー大学学生研修（動物薬理学）



2018年3月学類4期生卒業記念写真

ストになり、動物医療センターの全面的な協力を頂きながら種々の講義・実習を体験してもらっています。国外の大学との交流には地道で継続的な活動が必要です。今後も多くの方々の協力を頂き国際交流が進んでいけばよいなと思っています。

ざっと看護学類の2018年度の現状について紹介してまいりましたが、学類設立後8年が経ち、動物看護師を巡る社会情勢にも変化が見られます。学類の教育や研究においては変えるべきところと変えてはならないことがあると思います。良いところは伸ばし、足りないところは改善していきたいと思います。しかし、我々の努力のみではできないことも数多くあります。同窓会校友会の皆様には今後ますますの学類のサポートをお願いします。

学生教育、支援の新しい展開へ

教育センター長 中出 哲也

同窓会校友会会員の皆様におかれましては、お元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。本稿を教育センター長の中出哲也が担当しております。私自身は酪農学園大学獣医学科1975年入学79年卒業（獣医学科12期生）、81年修士修了で大学の卒業生でございます。

現在、私は獣医学類、伴侶動物医療学教育分野、画像診断学の教員であります。これまでに学生部次長、学生部長、動物医療センター長、獣医学類長、教育センター長、教務担当部長の役職を歴任し、大学運営業務に多くの時間を費やして参りました。そして2018年10月1日から大学の組織変更に伴い、学生の教務部関係、学生部関係等の業務全てを担当する新生「教育センター」の責任者を拝命するに至りました。心を新たに、その責任の重大さに身が引き締まる思いでございます。学生のために何ができるか、学生の立場に立って物事に臨み、歩みを共にするスタンスで業務に精励したいと考えております。新生と言っても何が変わったのかが十分にご理解できないと思いますので、簡単に今回の私どもに関する大学の組織変更について説明したい

と思います。従来、教務部、学生部が学生の教育や学生支援を担当しておりましたが、この度この教務部と学生部に加えて、以下の教職センター、教職課程室、医務室、学生相談室、共通教育開発室、学習支援室、体育準備室等を傘下に組み込み、学生に関する全ての業務を教育センターのもとで担当する事になりました。加えて学生支援課には課長2人を配置し、新たに障がい学生支援担当を設けました。学生支援に対して柔軟に、きめの細かな配慮、指導を更に進めていく体制になりました。また、学生教育や学生支援等に関する件につきましてご意見、ご要望、ご提案をお持ちの方は是非ご連絡頂けると幸甚です。

最後になりますが、今後とも酪農学園大学にご支援ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。皆様の益々のご健勝とご発展を心から祈念申し上げます



学生応援企画メニュー実施

2018年度同窓会校友会事業の一つとして第4回準会員（学生）応援企画メニューを6月中4回にわたり実施しました。本年度も酪農学園生協に協力をいただき日替わり丼物に健土健民牛乳を付けたメニューを200円で提供させていただきました。午前10時から午後2時までに各日250食限定、4日間で1,000食をご用意させていただきましたが全て昼までには完売するという盛況ぶりでした。4回目の実施となり多くの学生に浸透しているようです。そして新入生の皆さんにも食べていただけるように学内のポスター掲示なども行っています。開催時刻に食堂へ行くと美味しそうに食べる学生でにぎわっていました。食事中、写真撮影に快く応じていただき感謝します。次年度も多くの学生に喜ばれるメニューを考案し事業の一環として実施していきたいと思っております。



退職記念祝賀会報告

■ 2018年1月13日（土）午後6時より札幌第一ホテルで内田英二教授の退職記念祝賀会を行いました。出席者全員から一言ずつ内田先生との思い出話を披露する形で進められました。スライドショーも大変盛り上がり会の最後には参加者一同からオーダーメイドのワイングラスを贈呈。記念撮影と酪農讃歌の合唱で閉会となりました。



■ 2018年1月20日（土）午後5時よりホテルエミシア札幌で永幡肇教授の退職記念祝賀会を行いました。永幡教授から出席者への挨拶の後、懐かしい写真で39年を振り返りながら最終講義も行われ出席者は学生時代に戻り拝聴しました。会の最後には永幡教授が最後に送り出した大学院生である権平智氏より謝辞が述べられ閉会となりました。



■ 2018年2月3日（土）午後5時よりホテル札幌ガーデンパレスで山舗直子教授の退職記念祝賀会を行いました。所属の酪農学科、経営環境学科、生命環境学科、環境共生学類のゼミ生OBが全国から集まりました。会はスライドショーなど、笑いあり涙ありで大変盛り上がりました。最後に全員で記念撮影を行い閉会しました。



■ 2018年4月13日（金）午後4時よりホテル札幌ガーデンパレスで小岩政照教授の退職記念祝賀会を行いました。宗谷地区から沖縄まで全国から多くの卒業生が集まりました。会はお祝いのメッセージ、業績や思い出の紹介、花束・記念品の贈呈など。最後に小岩先生から感謝と今後も生産者と共に活動していきたいとの言葉をいただき閉会しました。



■ 2018年7月7日（土）午後6時よりホテルエミシア札幌で竹花一成教授の退職記念祝賀会を行いました。竹花先生よりご挨拶をいただき講演が行われました。歩んできた道のりや大学学長として学生たちへ伝えたいことなどをスピーチしていただきました。記念撮影後は昔話に花を咲かせ和気あいあいと親睦を深め閉会しました。



2018年度第27回ホームカミングデー開催報告

本年度のホームカミングデーは7月7日（土）記念礼拝（物故者追悼）・記念講演を黒澤記念講堂にて同窓生、在学生、学園関係者約80名で開催されました。例年の9月開催から7月の白樺祭（大学祭）同日に日程を変更して行われました。バーベキューランチの代わりに学生が出店している模擬店を利用させていただき形をとりました。記念礼拝の司式は小林昭博宗教主任によって行われました。讃美歌合唱のあと聖書「ルカによる福音書22章17-20節」を朗読、物故者追悼が行われ祈りを捧げました。司会の同窓会校友会加藤清雄事務局長が1年間でご逝去された同窓生、旧職員のご芳名を読み上げられました。小林宗教主任は「メメント・モリ」をテーマに奨励を行い礼拝の最後には全員で酪農讃歌を合唱しました。続いて記念講演に先立ち酪農学園を代表して谷山弘行理事長より学園を取り巻く状況報告と講演をいただくお二人の講師への謝意が述べられました。

最初に株式会社めぐり代表石田陽一氏（大学酪農学科44期生）の「都市近郊酪農の可能性を追求する—6次産業化の先へ—」をテーマに講演いただきました。都市近郊酪農について欠点を長所に発想の転換をはかり、近隣の若手農家と協力し農業の持つ無限の可能性で「6次産業化の先へ」酪農経営を追求していることをスライドで紹介いただきました。また、近隣の教育機関と連携し子どもたちに「食」と「いのち」の尊さを伝える活動内容も大変興味深いものでした。続いて石田氏の恩師でもある安宅一夫氏（酪農学園大学名誉教授）から「明治維新150年と酪農学園85年—地上の星とパイブルとまぼろしを受け継ぐ者—」と題して講演いただきました。安宅氏は明治維新の功労者が本学創立者黒澤西蔵翁の思想に影響を与えたことや様々な人物と酪農学園の関わりについてたくさんのスライドで丁寧に説明いただきました。特に北海道の命名にかかわる黒澤翁の見解やデンマーク酪農を目指した背景等もわかりやすくご紹介いただきました。質疑応答後、加藤事務局長の挨拶により記念講演を終了いたしました。

～第28回ホームカミングデー開催予定～

日時 2019年7月6日（土）午後より

会場 黒澤記念講堂（予定）

内容 記念礼拝（物故者追悼含む）、記念講演（演題未定）

講師 NPO 法人 ezorock 代表 草野竹史氏（経営環境学科1期）

環境 GIS 研究室 金子正美氏（酪農学園大学教授）

※詳細は決定次第ホームページ等でお知らせいたします



記念礼拝の様子



谷山弘行理事長



講師の石田陽一氏



講師の安宅一夫氏

大学合同周年記念同期会報告

2018年7月7日(土)白樺祭、ホームカミングデー同日、大学同窓会校友会の企画により新さっぽろアーキシティホテルにて大学合同周年記念同期会を開催。獣医学科は独自に企画・開催されているため獣医学科以外の同窓生、卒業10、20、30、40、50周年を迎える皆様にご案内しました。道内外約50名の恩師や同窓生が集まり和やかに楽しいひとときを過ごしました。これを機会に同窓生の

絆がより一層深まり独自に同期会など企画開催されることを願っています。今回は荒木和秋、石下真人、浦川利幸、太田一男、岡本全弘、加藤清雄、加藤敏文、工藤英一、小山久一、佐藤元昭、鮫島邦彦、篠原功、菅沼英二、堂地修、十倉宏、堀内一男、前田尚之、松中照夫、森夏節、山本克博、吉野宣彦(五十音順・敬称略)とたくさんの元教職員、現教職員にもご参加いただきました。



次回の周年記念同期会は2019年7月6日(土)白樺祭、ホームカミングデー同日に開催予定

次年度ご案内する学科・期は以下のとおりです。対象の皆様には文書を郵送予定です。

(酪農学科6期、16期、26期、36期、46期)

(農業経済学科5期、15期、25期、35期、45期)

(食品科学科8期、18期)(食品流通学科12期)

(経営環境学科8期)(地域環境学科8期)

(環境マネジメント学科1期)(生命環境学科1期)

獣医周年記念同期会報告

■ 2018年7月21日(土)獣医学科19期30周年記念同期会、午後1時より黒澤記念講堂にて記念礼拝と学内見学。札幌のセンチュリーロイヤルホテルに会場を移し午後6時より懇親会を行いました。学生時代の運動会のビデオ放映は大いに盛り上がりました。同窓生と恩師合わせて65名の参加。代表幹事は櫻庭義彦氏、幹事に玉井聡氏、島崎晃氏。



■ 2018年9月10～11日(月・火)獣医学科2期50周年記念同期会、1日目十勝川温泉第一ホテルで開催されました。直前に台風21号、北海道胆振東部地震の影響で残念ながら出席できない方もいましたが海外や沖縄など遠方も含め18名の参加がありました。2日目はあかん悠久の里鶴雅に会場を移し20名の参加。代表幹事は高橋健氏、幹事に唐仁原景昭氏、斉藤八郎氏。



■ 2018年9月23日（日）獣医学科30期20周年記念同期会、台風21号と北海道胆振東部地震と災害が続き一時は開催も危ぶまれましたが、午後6時より京王プラザホテル札幌で開催。北は浜頓別、南は台湾より同期49名と子供1名、恩師6名の参加をいただきました。代表幹事に福田茂夫氏、幹事に菊佳男氏、阪本浩和氏、吉川綾氏、丸川裕子氏。



■ 2018年10月7日（日）獣医学科40期10周年記念同期会、台風25号の影響で本州からの移動が危ぶまれましたが午後6時よりホテルエミシア札幌で開催。同窓生64名と恩師3名の参加をいただきました。大変盛り上がり思い出話に花を咲かせ、最後は酪農讃歌を全員で歌い記念撮影をして散会となりました。代表幹事に横山望氏、幹事は足立真実氏、酒井俊和氏。



■ 2018年10月20日（土）獣医学科11期40周年記念同期会、午後1時より黒澤記念講堂にて高橋優子先生による記念礼拝、山下和入学類長からは獣医学類の近況等講演。その後恩師の墓参り、動物医療センター見学を実施。南幌温泉に会場を移し43名の参加で大宴会となり竹花一成学長に学園の近況と今後をお話いただきました。代表幹事は高橋俊彦氏。



■ 2018年10月26日（金）獣医学科1期50周年記念同期会、午後6時より新さっぽろアーキティホテルで開催。93歳になられた田坂先生と湯浅先生をお招きし15名の同窓生が出席。50年前を懐かしみながら楽しい一夜を過ごしました。元気なうちにまた会いたいという声が多く、来年は名古屋で会う約束をして別れました。世話人代表には木村周一氏。



2018年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会報告

2018年5月18日(金)午後6時より新さっぽろアークシティホテルにて2018年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会が理事8名、代議員10名、監事1名、事務局2名の出席(委任状12名)により開催された。加藤清雄事務局長の司会で進行し議長は小山久一会長が務めた。冒頭小山議長のあいさつのおと議事が進められ議事録署名人には佐藤元昭理事、加藤浩代議員が選出された。議事第1号、2017年度事業報告並びに収支決算、監査結果について報告され承認された。第2号、2018年度事業計画(案)並びに収支予算(案)が提示され審議の結果承認された。第3号として役員改選が提案され承認された。

新理事に中出哲也氏、新代議員に近藤美雪氏、吉田陽平氏、秋吉珠早氏、稲場葵氏、新監事に立川直生氏が選任された。会長および副会長、事務局長の選出については現体制再選が提案され小山会長、上村篤正・志田和仁副会長、加藤事務局長それぞれが了承された。

最後に小山議長よりあいさつがあり旧理事・代議員、監事への謝意が述べられ本年度の理事・代議員会を閉会した。



物故者 2017年4月から2018年3月

ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

古川 碧 (酪農・2期)	角 武史 (酪農・4期)
図書 輝夫 (酪農・5期)	近藤 誠 (酪農・9期)
末吉 邦康 (酪農・9期)	尾崎 浩二 (酪農・11期)
乳井 正 (酪農・11期)	伊東 信一 (酪農・13期)
宮本 貞蔵 (酪農・45期)	安藤 敬夫 (農経・7期)
斎藤 信夫 (農経・7期)	立原 英夫 (農経・7期)
丸山 一之 (農経・7期)	青柳 哲也 (農経・26期)
池 伸夫 (獣医・6期)	柴田 裕明 (獣医・6期)
森本 耕造 (獣医・7期)	荘子 正博 (獣医・18期)
細矢 雄輝 (獣医・36期)	

敬称省略

会計報告

2017年度決算および2018年度予算について下記のとおり承された

収 入 (単位:円)

項 目	2018年度予算	2017年度決算	2017年度予算	備 考
前年度繰越金	12,158,145	12,070,013	12,070,013	
新同窓会費	27,570,000	23,820,000	23,820,000	30,000円×794名
同 窓 会 費	1,935,000	2,790,000	1,860,000	15,000円×186名
預 金 利 息	5,000	4,343	5,000	
助 成 金	10,000	10,000	10,000	同窓会より
ホームカミングデー分担金	200,000	135,000	200,000	学園・関係団体より
雑 収 入	100,000	0	100,000	
合 計	41,978,145	38,829,356	38,065,013	

支 出

項 目	2018年度予算	2017年度決算	2017年度予算	備 考
校友会事業費	13,260,000	10,784,329	13,600,000	
入学式関係費	1,600,000	1,529,359	1,600,000	バスケース、案内文書
卒業式関係費	8,160,000	6,493,693	8,000,000	パーティー会費補助他
在学生関係費	1,000,000	904,672	1,000,000	白樺祭助成金、テント他
同窓生関係費	300,000	124,200	300,000	記念品作成
ホームカミングデー関係費	300,000	175,725	300,000	食品・備品、謝礼金他
会報関係費	700,000	670,388	700,000	印刷代
周年記念同期会 退職記念祝賀会助成金	1,200,000	886,292	1,700,000	印刷代、助成金他
同窓会支部活動助成費	7,840,000	7,940,000	7,940,000	通信・活動費助成他
獣医同窓会活動費	4,050,000	0	0	30,000円×135名
同窓会費返還金	0	1,570,000	0	退学者64名分(25,000円 61人、15,000円3人)
校友会運営費	3,620,200	3,276,997	3,620,200	
会 議 費	150,000	93,704	150,000	理事・代議員会他
同窓会負担金	640,200	640,200	640,200	同窓会
人 件 費	2,300,000	2,267,136	2,300,000	事務局長手当て含む
通 信 費	70,000	51,700	80,000	電話料・郵送料
旅費交通費	60,000	43,380	80,000	理事・代議員会他
慶 弔 費	20,000	0	20,000	弔電
事務用品費	250,000	81,491	250,000	コピー、トナー代他
消 耗 品 費	50,000	37,286	50,000	フロアマットリース代他
雑 費	80,000	62,100	50,000	振込手数料他
雑支出	2,720,000	2,780,000	0	基金へ(卒業記念事業費)
小 計 (a)	31,490,200	26,351,326	25,160,200	
予備費	10,487,945	319,885	12,904,813	複合機代
当期余剰金	0	12,158,145	0	
小 計 (b)	10,487,945	12,478,030	12,904,813	
合 計 (a + b)	41,978,145	38,829,356	38,065,013	

(単位:円)

基 金	金 額
卒業記念事業費(準会員積立金)	51,740,000
周年事業費	17,342,367